

浜松観光ボランティアガイドの会

梓澤要先生講演会 「井伊家再興の悲願と松下一族」



熱心にお話される講師の梓澤要先生

10月10日(金)、地域情報センターにて歴史小説家梓澤要先生の講演会が研修部の主催によって、81名参加で開催されました。実は私は梓澤先生の小説を読んだことがなく、事前にちょっと調べましたが、ほとんど白紙状態で講演会に臨みました。

とつとつとした話し方、一見愛想のない資料、写真や映像なしというスタイルで、お話が急展開していききました。しかもいきなり本題に入っていたのでかなり面食らいました。ですが落ち着いて資料を見ると、



会場に詰めかけた会員

資料と多少前後しながらも、お話が展開していることがわかり、すぐに話に引き込まれました。

井伊家と松平家の格の違いや、当時の状況、今川氏の遠州における影響力の変化など、様々な角度から井伊直虎による井伊家の再興劇を分析されていました。そのおかげで、今までより深く当時の切迫した状況と展開を実感することができたように感じます。現代の

私たちから見ると歴史の展開は一つですが、当事者の立場で考えるといろいろな選択肢があり、一つでも選択を間違えていたら、井伊家の再興は無かったかもしれないと考えると、手に汗握る気持ちになりました。おそらく聞いていた皆さんも、想像をいろいろかきたてられたのでしょう、終了後は次から次へと質問が飛び出し、質疑応答が盛り上がりました。

最後に出された「歴史小説はどこまで創作が許されると思うか」という質問に「研究者が読んでも、つじつまが合うと考えられる小説を書くことが理想」と言われていました。史実の空白をいろいろな想定の中から、一番史実に近い可能性を書いた小説、あるいは「もしこうだったら面白い」と書かれた小説…。梓澤先生の作品、読んでみようと思いました。

広報部 松沼素子(南ブロック)

お知らせ

受講者募集

“はままつ案内人”
新人養成講座

歩きながら学ぶ、地域の魅力。
ガイドとして一歩踏み出そう！

【講座期間】 令和8年1月12日から2月16日まで全6回
【対 象】 成人男女(講座終了後、月3日程度のガイド活動ができる方)
【定 員】 20名
【参 加 費】 1,000円(資料代含む)
【申込〆切】 令和7年12月26日(金)

◆講座予定◆ 時間 9:30~11:30

回	月	日	曜	学 習 内 容	会 場
1	1	12	日	・ガイドの会の概要説明・ガイドのマナー	可美公園総合センター 研修室 浜松市中央区増家町 920-2 tel 053-449-1155 ※1月26日：現地研修
2	1	19	日	・お城とは ・浜松城の石垣	
3	2	6	月	【現地研修】浜松城及び周辺を歩く	
4	2	9	日	・浜松あれこれ ・観光ガイドの知識	
5	2	16	日	・家康の散歩道	
6	2	16	日	・浜松在城期の家康 ・入会手続き	

入会後、3月4日に現地研修(家康の散歩道、浜松まつり会館、浜松駅周辺、歴々産資料館)があります。

◆申込方法◆ 下記の1~3いずれかの方法で申込みしてください。

- インターネット 参加申込フォーム
<https://forms.gle/K4NyFCrvJE1NS8Xh6> (QRコードをスキャンしてください)⇒
- e-mail mail@hama-svg.jp (浜松観光ボランティアガイドの会)
- 郵送 (裏面の用紙に記入して、郵送してください)

ご連絡いただく内容 (ご連絡いただいた個人情報は、当該講座の運営以外には使用しません) 申込みフォーム

①氏名(ふりがな) ②干住所 ③生年月日 ④性別 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス

◆問合せ先◆ TEL 053-456-1303 (担当：春日) HP はままつ案内人 検索

e-mail mail@hama-svg.jp 主催 浜松観光ボランティアガイドの会

共催 浜松市

浜松城公園 (指定管理者：遠鉄アシスト株式会社)

ふるさと講座 小学生と巡る軽便鉄道奥山線

9月30日(火)、広沢小学校の3年生36名を対象にふるさと講座「軽便鉄道奥山線」の同行ガイドを行いました。先生の他に保護者ボランティアの方5名が参加してくださり、大変助かりました。



紙芝居で奥山線を説明する大隅部長

最初に日枝神社の境内で事業部の大隅部長から「浜松地方における鉄道の始まり」から「軽便鉄道奥山線の歴史」、そして「奥山線はどのように利用されていた

か」について、紙芝居を使って説明がありました。その後、「亀山トンネル」、「旧広沢駅」、「広沢トンネル」、「車輪モニュメント」の4カ所を4グループに分かれて見学しました。亀山トンネルでは、トンネルに掲示された奥山線の写真をライトで照らしながら、説明していましたが、子供たちは、話を聞くことよりもタブレットで写真を撮ることに夢中になっていました。入口では、実際にメジャーを使ってトンネルの幅などを測って、大きさを確認していました。旧広沢駅は、電車が走っていた頃、

緑の木々に囲まれていて、夏には市立高校の女学生の白い制服がまぶしかったとのこと。

広沢トンネルは、実はトンネルではなく跨線橋(こせんきょう)であることを説明されましたが、子供たちには少し難しかったようです。

車輪モニュメントの前では、事業部員が軽便鉄道と在来線、新幹線の車幅の違いについて、工夫を凝らして説明しました。奥山線の車幅が狭いのは、投資が少額で済むことと、そして街中を走るの、敷地面積を少なくするためとも言われています。

最後に三社神社での質問コーナーでは、「駅の数は何乗れたの?なぜ廃線になったの?」など、いろいろな質問があり、部員が丁寧に答えていました。奥山線の運賃の説明では、当時使用されていた切符を見せながら説明し、子供たちも興味深く聞いていました。

広報部 長谷谷晃徳(東ブロック)



奥山線の車幅を説明する部員

中ブロックミニ研修 賀茂真淵記念館を訪ねて



池谷昭広館長の講演

9月30日(火)総勢14名の参加者(北ブロック1名)で賀茂真淵を知ろう!と賀茂真淵記念館にて中ブロックのミニ研修が行われました。池谷昭広館長より「賀茂真淵の生涯と業績」の講演をお聴きして、特別展の展示を見ました。真淵が浜松生まれと知ってはいたものの、館長さんの分かりやすいお話で、浜松の偉人としての真淵のことをわづかですが知ることができたと思います。

3月4日生まれで「岡部三四(そうし)」と名付けられ、11歳の時より諏訪神社の大祝(おおほうり)杉浦国頭(くにあきら)の妻であり荷田春満(かだのあずまろ)の姪でもある真崎から手習い受けたところから、真淵の国学が始まったのでした。その頃の真淵は生家から灯籠坂を登り諏訪神社まで勉学に通ったのでしょう。27歳で結婚。29歳で梅谷本陣へ婿養子として二度目の結婚。37歳で荷田春満のいる京都に上るまで浜

松で国学を樹立するべく勉学に勤しんでいたのでしょう。弟子である本居宣長との国学にとって大きな出会



賀茂真淵も大河ドラマになるといいですね!

い「松坂の一夜」は有名ですが、後日、そこに同席していた男にだまされることになり、真淵にとってはつらい出来事であったのかもといった逸話も紹介いただきました。また、特別展の展示には国学を支えた版木の展示もあり、興味深いものでした。

素晴らしい業績をたくさん残し、今につながる国学を樹立させた浜松の偉人としての賀茂真淵をさらに知りたいと思えた貴重な時間でした。

中ブロック 堀内玉乃

※賀茂真淵記念館では、真淵の幼名を「三四」、読みは「そうし」としているそうです。

南ブロックミニ研修 三河の宿場町を歩く

10月8日(水)、暑いほどの好天に恵まれ9時23分浜松駅を出発、東海道本線と名鉄電車乗り継いで本宿～赤坂～御油(ごゆ)を巡りました。参加者は総勢26名。他ブロックから8名の参加がありました。



舞台づくりが進む杉森八幡社で

本宿では、旧東海道の街並みを見ながら法蔵寺へ。前住職夫人の案内で本堂の隅々まで見学させていただきました。竹千代(家康)8歳の直筆や手形、家康着用と伝わる兜・陣羽織などの宝物を目の当たりにして一同感激。三方原合戦忠死者の墓にも詣でることができました。

昭和3年竣工の旧村役場(復元)では、ご厚意により館内で昼食(お弁当)を取らせていただき、村長室・応接室などを見学して昭和初期の雰囲気を味わいました。

続いて赤坂に移動。ハイライトは杉森八幡社の「赤坂の舞台」。自然木を生かした屈強な梁、戸板1枚1枚を付け外しする緞帳(どんちょう)、竹組みの観覧席など、明治初年の建築がそのまま残っているのです。

極めつけは回り舞台で、私たち全員が乗ったまま実際に人力で回していただきました。そして江戸期からの旅籠大橋屋。2015年まで旅館として営業していました。

赤坂と隣の御油は東海道で最も宿場間の短い1.7km。芭蕉の句「夏の月御油より出でて赤坂や」が句碑だけでなく赤坂資料館ののれんをはじめ、松並木資料館のポスターなどあちこちに見られます。

今もしっかりと土塁の上に残る御油のクロマツ並木は国指定天然記念物。

約600mの松並木を抜けて、再び電車で浜松に戻りました。

充実の一日研修でした。



きれいに保存された御油の松並木

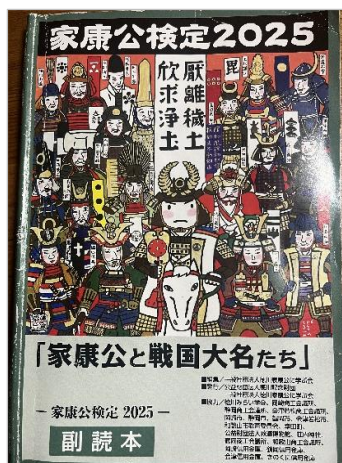
南ブロック 渥美恵子

会員の交流広場

家康公検定は2010年よりはじまり、今年は14回目となります。私は2013年の家康公検定から受験していて、今回で11回目の受験となります。問題は四択一100問70点以上で合格です。受験日は東ブロック会と重なってしまい申し訳なかったのですが、受験させていただきました。

おかげさまで、これまで受験したすべてにおいて合格はしているものの、高得点の合格がまだないので、仕事等の合間をみながら一生懸命勉強はしていました。

受験される皆さんの年齢も様々で、小学校低学年から90代まで幅広い世代の方々が受験されています。



擦り切れるほど勉強した副読本

家康公検定2025を受験して

先ほども書かせていただきましたが、100問を制限時間90分で考えることはなかなか集中力が必要で、年々大変になっております。

私は、徳川家康公の生き方・考え方が大好きで受験しています。しかし当然ではありますが、まだまだ知らないこともたくさんあります。今までは趣味の領域として楽しみながら受験してきましたが、今後はそれに加えてせっかくボランティアガイドの会に入会させていただいたので、それらの知識を観光に来られたお客様にお伝えできればと考えております。検定は限り挑戦したいと思います。

まだ一度も受験されたことのない方はぜひやっていただきたいと思います。



家康公検定2025 静岡会場と私

東ブロック 山下文秀

私の義父の先祖は代々浜松城のお膝元で生まれ育ちました。2023 年「どうする家康」の大河ドラマ館でボランティアをしていた時、「梅谷本陣に関係あるの？」と当会会員に言われびっくり。さすがよくご存じだと感心した次第です。梅谷本陣と浜松出身の国学者賀茂真淵に関係があると知る人も少ないでしょう。義母も他県出身なので真淵の知識が浅く、子や孫に聞かれて答えられるようにと、賀茂真淵記念館の講座を受講し



梅谷本陣跡説明看板と石碑（伝馬町交差点）

ていたそうです。私も義母に倣い十数年前から受講、2024 年4月からは浜松観光ボランティアガイドの会にも入会いたしました。

江戸時代、浜松宿に6軒あった本陣の一つ「梅谷本陣」は現在のザザシティ浜松の角にあり、本陣跡の石碑と説明板が建てられています。享保10年（1725）男児が無かった当主は娘婿として東伊場の岡部庄助（真淵）を養子に迎えます。

※賀茂真淵の本名について岡部家譜によると「岡部庄助後改三四、又改衛士」

長男真滋が誕生し跡取りができたため、学問への情熱を捨てられない庄助は、単身京へ上り、その後江戸で勉強を重ね国学者賀茂真淵となりました。

真淵の墓は、東京品川の東海寺大山墓地にあります。浜松に残した妻が亡くなった時（真淵は生存）、息子の真滋は夫婦二人の戒名を並べて彫った墓を伝馬町の教興寺に建てました。今は中沢墓園へ移設し、私の義父母と並んで眠っています。明治3年（1870）明治政府から本陣名目の廃止通達が出されました。

明治になって平民も苗字を名乗るようになった時、苗字を梅谷（うめや）としました。しかし戦後、義父だけが「うめたに」と読み方を変更し現在に至っています。観光ガイドとして勉強することはまだまだたくさんありますが、まず縁のある梅谷本陣と賀茂真淵については心のこもった説明ができるよう、これからも知識を深めてまいりたいと思います。



賀茂真淵夫妻の墓（左側）

北ブロック 梅谷恵子

10月のガイド活動 <明るく楽しくやらまいか>

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

<浜松城>

3日	金	静岡県立焼津中央高等学校
10日	金	静岡県立浜松特別支援学校
16日	木	日立通信共栄会
18日	土	日本大学経済学研究会山陽会
19日	日	東海道53次ウォーク
		その他3団体

41名
13名
22名
32名
22名
50名

<浜松まつり会館>

4日	土	まつり会館 オータムフェス
8日	水	磐田市立磐田南小学校
10日	金	浜松市立上島小学校
14日	火	金城学区老人クラブ連合会
15日	水	山梨県中央市寿クラブ

472名
90名
45名
45名
105名

<犀ヶ崖資料館>

3日	金	浜松市立積志小学校
----	---	-----------

65名

<ふるさと講座>

24日	金	浜松市立佐鳴台小学校
30日	木	浜松市立富塚西小学校

85名
83名

はままつ案内人会報 280号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2（浜松城内）

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ <https://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地